

大阪地方本部主催 第13回地本ソフトボール大会開催

大阪地方本部は、3月7日(火)、万博記念公園スポーツ広場に於いて、「第13回ソフトボール大会」を開催した。各支部の

チームが集結し、計4チームによるトーナメント方式で行った。当日は、雲つない快晴に恵まれ、久しぶりのレクリエーションということで、笑顔もこぼれる大会となった。当日会場準備をお手伝いした

始球式をする榊野議長

団体や女性と各部門別に表彰を行った

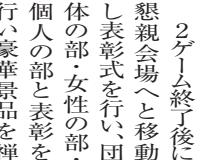
JR西日本連合大阪地方協議会主催 「2023春季生活闘争勝利」 団結ボウリング大会

3年間の労苦に報いる回答を目指す!!



JR西日本連合の「2023春季生活闘争を闘う」にあたり、グループの皆様と一層の団結と親睦を図るために実施し、当日は笑顔いっぱい楽しい大会となった。

榊野議長が春闘勝利に向け全力で始球式を行い、その後各チームに分かれ、休日ということもあり、女性や子供連れの参加もあり和やかなムードの中、ボウリングを楽しんだ。



2ゲーム終了後に懇親会場へと移動し表彰式を行い、団体の部・女性の部・個人の部と表彰を行い豪華景品を榊野議長より授与された。

JR西日本グループ各単組の春闘勝利に向け共「ガバロー!!

優勝した天王寺運輸分会の皆様



優勝 天王寺運輸分会
準優勝 奈良車掌区分会

だいた支部のスタッフ皆様含め、本当にありがとうございませ

榊野委員長挨拶(要旨)

新型コロナウイルスの感染拡大が、今だ、収束しない中、感染防止に努めながら、安全・安定輸送の遂行に日夜、ご精励いただき、年度末に向けた業務多忙の中、地本委員会にご参加いただいたことに感謝申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症により、私たちの働き方、生活様式が変化して3年が経過しました。感染症法上の位置づけも5月8日からインフルエンザと同じ「5類」への変更や、マスク着用の考え方を直すなど、感染防止と社会経済活動の両立に向けた動きが具体化してきています。加えて、我々の足元の収入状況も、直近では、コロナ前の8割程度まで回復しており、目標の9割は難しくなっていますが、第3四半期決算においても3期ぶりの黒字を計上するなど、徐々に回復しつつあり、大阪地方本部エリアでいえば、うめきたの開業、奈良線複線化や2025年には大阪万博など、明るい話題もあるのも事実で、明るい未来に向け、皆さんと共に運動を進めて行くべく、地方委員会の開催にあたり、主要課題4点について問題提起を申し上げたいと思います。

更なる職場からの安全確立について

福知山線列車事故から4月25日で18年となります。この間の労使の取り組みにより確実に安全性や安全に対する意識は高まっているのは間違いありません。しかしながら、1月以降、2件の死亡労災をはじめ、退避不良や墜落、感電による労災が発生するなど、撲滅には至っていません。また、1/24〜25にかけては、雪害による輸送障害により、様々な理由が重なり、結果、早期に列車を止める判断ができず、お客様に多大なご迷惑をおかけしました。夕方〜明朝にかけて対応いただいた組合員、現在もお客様からのお問い合わせ窓口の対応に従事していただいている間接社員組合員の皆様にも感謝申し上げます。

現在は、様々な対応策について検討・実施に向け労使で議論していますが、大前提になるのは、社員組合員が安全安心して作業に従事できることが重要であり、再発防止に向け、実行ある対策を講じていけるよう近畿協議会の中でも、しっかり労使協議を進めていきたいと思っております。

また、4月からは、私たちの声を反映させた「次期考動計画」が新たにスタートします。次期計画では、「すべてのJR関係労働者の死亡事故・重大労災ゼロ」を目指して、働く者の全員参加で職場からの安全を築くことが大切だと考えます。我々の仕事は、常に危険と隣り合わせで業務を行っています。引き続き、安全に対する高い意識を持ちながら、「安全お守り手帳」を活用し職場からの取り組みを要請します。

2023春季生活闘争について

賃金実態調査への集約をはじめ撤布など、この間の取り組みに感謝します。今春闘は、物価高や離職への対応をはじめ賃上げに対する社会的注目度が高まる中で、交渉が展開されています。昨年と違い「基準昇給」の実施について、会社は「前向きに検討していく」とする回答を早期に導き出すことができました。また、第3四半期決算については、3期ぶりに黒字を確保することができ、費用の面においても多額の費用を削減することができたのも組合員の努力の結果であるのは間違いありません。年度末に向け、工事費などの費用が高まる時期でもあり一定の懸念もありますが、このまものとご利用いけば3期ぶりに通期で黒字を達成できていると考えています。このことは、3年間踏ん張り頑張ってきた成果であり、皆で喜び合いたいと思います。

加えて、労使共通の課題である離職者に歯止めがかからない状況も深刻な課題であり、いかに人材を確保し定着に向け初任給の引き上げや若年層への賃金改善、採用競争力の強化につなげていくか重要な位置づけの春闘であるのは間違いありません。3月1日からは、2024年度の就活が解禁され、給料の引き上げで志望度が高まると答えた学生は7割超に及んでることも報道されてきました。やはり、働きがいや向上するには、「人への投資」賃金の底上げが必要であり、JR西労組の要求の柱である、「年度初における基準昇給の実施」「ベースアップ3,000円」「年間臨給5.0」の獲得に向け、撤布に込められた想いを、今、委員会において全体で意思統一し、中央闘争委員会の背中を押ししていきたいと思っております。

組織の充実・強化について

対話を大切に労働組合の存在感を示す1年にしていきたいと思っております。長引くコロナ禍で、組合活動に制限がかかり、歓迎会やレクなどが開催できませんでした。ようやく、withコロナ社会に向け、社会経済活動が動き出したことから、地方本部としても工夫を凝らして運動を再開していきたいと思っております。5月には、中央本部ソフトボール大会を準備地本として受け持っていることになっています。是非、4支部の皆さんと力を合わせて開催していきたいと思っております。また、4月には、新入社員が入社します。今年は運輸系プロ採の採用が2年ぶりに配属されることとなります。西労組の仲間を迎えるために支部・分会のお力をお貸ししたいと思います。具体的には組織対策会議で取り組み内容を深めていきたいと思っております。

そして、現在は、こくみん共済coopへの契約移転に向け、分会で取り組んでいただいております。再度、支部・分会から再周知いただく取り組みを要請しておきたいと思っております。

自然災害の時など、万が一の時のために、共済の加入が必要であることは理解いただいていると思っておりますが、加入者全員の移転、西労組の主たる共済である、総合共済、家族支援共済の加入促進にも働きかけをお願いしておきたいと思っております。

政策・政治課題について

3月31日に第20回統一地方選挙が告示され、4月9日の投票日の日程でスタートします。コロナ禍からの回復とJR西日本グループの持続的成長に繋げていくには、政治活動への参画と、我々の支援する議員との連携が必要不可欠であります。

先日雪害では、JR西労組組織内議員である京都府議の梶原議員が山科駅前の地下通路の使用や施設など一時的な仮眠や待機場所にするなど、山科区長と連携し対応していただきました。常日頃から、公共交通の輸送状況を把握するなど府民区民に対して情報提供をしているからこそできた考動であると思っております。

この大阪では、田尻匠奈良県会議員の7期目に向けた改選を迎えます。3月1日には、県議会の定例議会で、鉄道の利用促進や地域公共交通をどのように維持・成長させていくかなど、知事に対して質問をしていただきました。

知事からの答弁も地域が主体的に参加することが重要であり、地域公共交通のあり方については、積極的に取り組んでいきたいと答弁もいただいております。

加えて、現在、開会中の通常国会では「地域公共交通活性化再生法」の改正案が提出され審議されることとなります。国交省が提出している5法案のうち、1番初めに審議されることになっており、早ければ4月には成立する見込みであり、可決されれば、国が自治体と事業者・地域の協議に加わり、これまで以上に、より円滑に支援できる仕組みを作ることができ、JR連合の政策提言が前進することとなり、地方議員との連携がより重要になってきます。

最後に、今年は、大きなプロジェクトが花開く年になります。一方で、業務面において、駅の窓口体制、管理駅体制の見直しや施設部門における業務体制の見直し、鉄道部体制の見直しなど、多くの施策が予定されており、私たちの働き方も大きく変化していく年になります。安全最優先で働きがいのある職場環境の構築に向け、現場の声を労使協議に反映させていくこととします。

以上、本委員会に課せられた主要課題について申し上げます。後ほど提起する方針について活発な討議をいただくことをお願いし、執行部を代表してのご挨拶とします。

川原書記長 総括答弁(要旨)

本委員会は、新型コロナウイルス感染症により、昨年の委員会同様に、出席範囲を縮小し、時間短縮にて開催させていただきました。次年度以降は状況にもよりますが、コロナ前のように、この会場に多くの皆さんと集い、春闘を盛り上げてまいりたいという風に考えております。

本日は4名の委員から14項目について地方本部方針に対して補強いただいた。

ほぼ、すべての委員から、安全の取り組み、業務課題、2023春闘、組織や政治課題について触れていただいたと思っている。

時間の都合もあるのですが、発言いただいた項目について、簡潔に総括していきたい。

■まず、安全についてである。

方針提起でも申し上げましたが、福知山の事故から18年をまもなく迎えます。安全の取り組みについては、日々の皆さんの取り組みにより安全性は確実に高まっているのは事実です。ただこの半年間では、雪害対策に順応出来なかったことで、今まで愚直に取り組んできた事が全否定されるようなこともありました。死亡労災も連続して発生し、また一歩間違えればというような事象もここ頻りに続いています。

退避不良をはじめ、危険な事象が発生していることを考えると、職場にあるリスクに対して、個人だけで気付きを感じるのは難しくなりつつあるかもしれないが、チームで仕事をしている以上、ひとつひとつつぶしていくことが大事である。

日々の業務の中で、培った経験と技術を生かしてこれからも安全に対して高い意識を持っていただくこともお願いしておきたい。

そのためにも安全お守り手帳を活用し、職場、お客さま、仲間、そして自分自身の安全を守っていただきたい。安全に終わりが無いのを認識し安全の取り組みを進めていただきたい。

■23春闘について

中央闘争委員会も、組合員の負託に応えられるよう交渉に臨んでいる。現時点では昨年と違い、定期昇給の実施を判断し、前向きな交渉がすすんでいるように見えます。今こそ人財への投資こそが、離職に歯止めをかけ、この会社を守り続ける原動力となることを会社に感じていただきたいと思っております。私たちの生活を守るため、要求実現に向け最後の最後まで、撤布の思いを中央闘争委員会に届けていきたい。

■働き方改革について

これからの5年間は変革期・復興期の第II期、そしてそのさらなる5年後は進化・成長期と、10年先を見据えたと想像がつかないほど、技術革新が進んでいるかと思いますが、社会の動きに乗り遅れないよう、

この機会をチャンスと捉え、検証を進めてまいりたい。一方で、変化のスピードについていけない現状もあるうかと思っております。走れるとこそはしっかりスピード感をもってやらなければなりません。一旦立ち止まりしっかりと検証しなければいけないものは、議論しなければいけないと思っております。そして時間外労働もご報告いただいていると思っておりますが、業務量が多く、一部実績をあげていないのではないか?というような事も散見されています。正しい報告をすれば、管理職も我々もホントの業務量がわかります。業務量を減らすには、正しい実績の積み上げが不可欠になります。引き続き、よろしくお願ひしたい。

■組織の充実・強化について

昨年に引き続き、会社を去っていく社員が止まりません。また組合活動を再開しようとしても、コロナ禍で自粛をしていた影響なのか、このままでもいいんじゃないかというような声も聞こえてきます。我々としては、コロナ禍で多くの課題を皆さんと共有しながら課題解決してきました。

これからは「JR西労組に入ってよかった」と思われるような楽しい西労組運動を進めていかなければならないと思っております。世話役活動の原点は、分会・職場にある。組合の必要性を組合員に理解・浸透させていくことが大切である。ぜひ、引き続きの取り組みを要請しておきたい。

まもなく、新入社員が今年も入社してくる。そして来年には1420名の採用計画がプレスされました。

5月からは開催できていなかった歓迎会なども再開できると思っています。ウィズコロナを意識しながら、分会の組織強化を強める分会活動を再開してください。コロナ前を知らない若手組合員に対ししっかりと先輩の皆さんが寄り添ってあげて、西労組の存在意義や組合の必要性を理解いただけるよう分会からも取り組みをお願いします。地方本部も皆さんと一緒に組織強化につなげていきたい。

■最後に、政治・政策について

政治活動は、会社の労使交渉で解決できない税制や法律など、私たちの暮らしをよくするためには、私たちの代弁者である議員を各議会に送りださないと行けない。組合員へ政治の浸透や政策への理解を深める取り組みも再度お願いしたい。

結びに、まだまだ苦難な期間が続くかと思いますが、皆さんの思いを胸に榊野委員長を筆頭に、2023春闘勝利に向けて、また統一地方選挙での田尻匠議員の必勝に向けて大阪地本が総団結していくことを申し上げ総括答弁とします。共に頑張りましょう!